



馬の学校

馬の学校通信

2012. 6 vol.46

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 名古屋市天白区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX : 052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



夏のプログラムについて

諸事情により、夏のプログラムはお休みさせていただきます。
楽しみにお待ちいただいた皆様、大変申し訳ございません。

日本治療的乗馬協会からのお知らせ

「治療的乗馬」研究集会2012

＜大会テーマ＞ 豊かな生活に寄与する馬（パートⅡ）

— 気づき：こころとからだをつなぐもの —

「運動器」が人に対して持つ意味や役割とは何でしょうか？その機能不全とは何でしょうか？療育の父と呼ばれる高木憲次氏は、その機能不全を「肢体不自由」と呼び、その克服が目的とするものは一人の人としての尊厳であるとしています。スポーツとレクリエーションに焦点をあてた昨年に続き、「気づき」をキーワードとして運動器と心（意識）のつながりや広がりやに焦点をあて、馬との活動の豊かな生活の質への寄与について考えます。

期間：2012年11月3日（土）～4日（日）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都渋谷区代々木神園町 3-1

主催：特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会

内容：記念講演①

「骨格・呼吸・身体の動きを意識する」（仮題）

堀 美和子氏

（国際フェルデンクライス連盟公認プラクティショナー）

記念講演②

「『運動器の10年』の今後を展望して—環境との対話—」

実践および研究報告と協議

参加費：2日間 会員 5,000 円／一般 7,000 円／学生 3,000 円

1日間 会員 3,000 円／一般 4,000 円／学生 2,000 円

詳しくは日本治療的乗馬協会 HP をご覧ください

<http://www.jtranet.jp/>

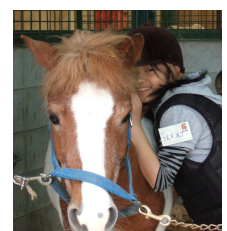
馬が教えてくれること①

～「馬は怖くない」～

子どもが初めて馬を目の前にして怖がっているとき、大人たちは「怖くないよ」と言うことが多いのではないのでしょうか。私たちにとっては怖くなくても、子どもにとっては大きくて未知の動物。「怖くないよ」と言われることは、その子の感じる心を否定することにもなりかねません。

そんなとき、頼りになるのはポニーたち。大きな馬は見上げるような形になりますが、ポニーなら目線が子どもたちとぐっと近くなります。服部緑地乗馬センターの看板ポニー「角さん」は、ふれあいプログラムで、多くの子どもたちの馬に対する恐怖心を和らげてくれています。そっと手を出せば、そっと匂いをかいで「こんにちは！」とあいさつしてくれます。鼻面を触ってみても、じっとしてくれています。恐る恐るブラシがけをしている間も、気持ちよさそうにたたくみ、時折、子どもたちの様子をそっと確認しています。そしてにんじんをあげるときには、口元まで持ってきてくれるのをじっと待ち、お行儀良くおいしそうに食べてくれます。

そんな角さんは、その存在で「馬は怖くないよ。仲良くなるよ。」と語りかけているようです。それに応えて、子どもたちも「もしかしたら怖くないかも」「まだちょっと怖いけれど、ちょっとさわってみたいな」という気持ちになるのかもしれない。



2011 年度会計報告

収入	(円)
年会費・賛助会費	57,000
プログラム収入他	495,293
合計	552,293
支出	(円)
通信費	77,720
消耗品費	43,600
プログラム費	427,310
合計	548,630

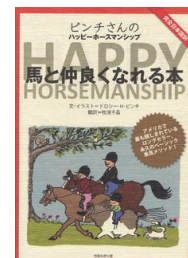
おすすめの本

『ピンチさんのハッピーホースマンシップ
馬と仲良くなれる本』

恒星社厚生閣

文・イラスト：ドロシー・H・ピンチ 翻訳：牧浦 千晶

参加者のお母様から紹介していただいた本なのですが、題名通り、馬と仲良くなるための秘訣がたくさん書かれています。この本のユニークなところは、馬が主人公になり、「ボク」が馬の体の仕組みから、どうやってつき合っていくとお互いにハッピーになれるのかなどを、やさしく教えてくれます。子どもから大人まで、馬と仲良くなりたい方は是非一度読んでみて下さい。



「馬と仲良くなれる本」から

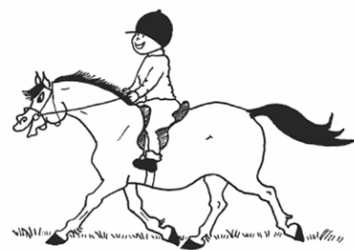
<馬の習性>

「ボクは馬なので、当然、馬のようにふるまいます。一般的にボクは親しみやすい動物で、人間のことが大好きです。なでてもらったり、話しかけてもらったりするのも好きです。ただし、ボクの頭をなでる時には、ボクの眼より下をなでるようにしてくださいね。なでてもらうのに一番いい場所は、クビか肩

です。あなたはボクの歯や蹄から安全な距離を保てますし、ボクにとってはあなたの居場所がよく見えます。」

<馬をコントロールするための扶助とその作用>

「あなたにとって容易で、ボクも気持ちよく聞き入れられるのが、理想的なコントロールです。ボクは力づくで打ちのめするような敵ではありませんからね。ボクシングの対戦相手ではないのですから！むしろ、ダンスのパートナーのような存在です。正しくガイドしてもらえれば、素直に従います。あいまいな指示を送らず、正しくガイドすることがとても大切です。明確に指示してもらえれば、ボクはちゃんとそれに応えますから、お互いに楽しめる良いパートナーになれるですよ。でも、あなたが優柔不断だったり、乱暴な方法で要求されると、ボクは好き勝手な行動をするか、どうにかしていただちを示そうとします。あなただって、ボクの立場ならきっとそうするでしょう？」



編集後記

早くも台風が発生したりと、不安定な気候が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？

この春は、奈良県の帝塚山大学にて講義をする機会に恵まれました。「動物介在活動概論」という、心理学科の学生対象の講義で、数名の教員とのリレー講義となりました。馬の他にも、イルカ、犬、猫などを用いた活動の基礎を学ぶ内容でした。この領域については初めて知るという学生がほとんどでしたが、4回の講義終了後、「子どもたちと馬は言葉ではない何かで通じ合っているのだなと思った。」「体を預けて上に乗り、指示を送り、それに応えてくれるという信頼関係は馬ならではと感じた。」「今までは馬は利用するだけの動物だと思っていたが、馬が私たちに与えてくれるものもあるのだということがわかった。」などの感想があり、馬の持つ力を少しでも感じてもらえたかなと思います。

春に続き、夏もプログラムがお休みとなり、大変申し訳ございません。秋も未定ですが、どうかご了承下さい。(峯崎友香理)